



B型肝炎予防接種を受けましょう！！



(対象者)

生後1歳に至るまでの方

1歳の誕生日の前日まで無料（公費）で受けられます。

(接種スケジュール)

1歳になる前に3回の接種を終える必要があります。

標準的な接種時期は生後2カ月～9カ月です。

1回目の接種から3回目の接種を終えるまでには、おおよそ半年間かかりますので、接種日程の管理が重要です。

対象年齢を過ぎると、任意接種（全額自己負担）となります。

1回目 生後2カ月以降に接種

2回目 1回目の接種から27日以上の間隔をおいて接種

3回目 1回目の接種から139日以上の間隔をおいて接種

(注意事項)

・平成28年4月、5月生まれで、平成28年10月の定期接種開始以降初めてB型肝炎ワクチンを受けられる方は、10月時点ですでに生後4～5カ月を経過しているため、生後1歳に至るまでに3回接種するためには、接種日程の管理が重要です。

・HBs抗原陽性者の胎内又は産道において、B型肝炎ウイルスに感染したおそれがあり、抗HBs人免疫グロブリンの投与に併せて組換え沈殿B型肝炎ワクチンの投与を受けたことがある方は、定期接種（公費負担）の対象となりません。

B型肝炎予防接種の詳細については裏面をご覧ください。



【B型肝炎ウイルスの感染について】

B型肝炎ウイルスの感染は、ウイルス持続感染者（キャリア）の母親から新生児への感染が知られています。

近年、唾液、汗、涙などにより、集団や家族内でも感染することがわかってきました。例えば、集団の場でのおもちゃの共有や、汗をかいた体が傷のある皮膚に触れることなどが感染のリスクとなります。

小児の感染者は多くはありませんが、感染が慢性化し、大人になってから、肝がんや肝硬変の原因となることがあります。

【小児のB型肝炎ウイルスの感染状況】

小児（0～15歳）のB型肝炎ウイルス感染者は、推計で約0.025%（10万人に25人）とされています。

【望ましい接種時期】

1歳未満でB型肝炎ウイルスに感染した場合、約90%*の確率で感染が慢性化するとされており、早い時期での接種が必要です（1歳以上の場合1～4歳は20～50%*、それ以上の年齢では1%以下*が慢性化するとされています）。しかし、予防接種を受けることで、95%以上の乳幼児に、感染予防に必要な抗体ができるとされています。

*WHO（世界保健機構）の報告

【効果持続期間】

20年以上持続すると考えられています（個人差があります）。

【ワクチンの種類】

現在、2種類のワクチンがあります。アレルギー等に注意を要する場合があるため、接種の際は、かかりつけ医等にご相談ください。

- ・ヘプタバックスⅡ（MSD株式会社）
- ・ビームゲン（一般財団法人 化学及血清療法研究所）



予防接種に関するご相談は市民健康課へ。

鎌倉市 市民健康課
☎0467-61-3942（直通）